

読み聞かせて

昔話、

埼玉県立久喜図書館
子ども読書支援
ボランティア
おすすめ!!

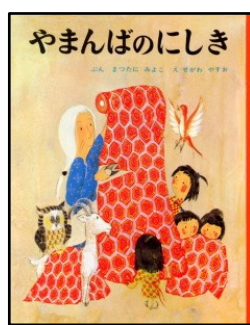
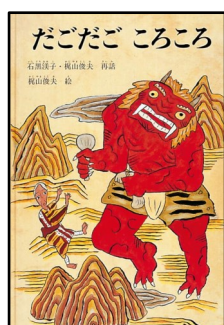


読んでいますか?

みなさんは、読み聞かせて昔話を読んでいますか？
今の子どもは古めかしい昔話を喜ばない、なんて思っていませんか？
実際に読んでみると、子どもたちは驚くほど昔話を楽しんでいます。
ただ、昔話の絵本選びが難しいのも事実。
そこで、ぜひ読んでもらいたい昔話絵本を選びました。

低学年から

タイトル	作者	出版社	時間	内容	おすすめのポイント
かにむかし	木下順二／文、 清水崑／絵	岩波書店	11分	かにが大切に育てた柿の木に実がたくさんなった。 すると、さるが柿の木に登って実を食べ始めた。かには、さるに青い実を投げつけたので、つぶれてしまう。 さるにだまされた子がにが、そろって敵討ちに行く。	独特なうねりのある文体は、はじめ読みにくいかもしれないが、聞き手の耳には心地よく響く。かにと柿の木のやりとり、子がにと助っ人たちの問答は、特に印象に残るので、よく練習して読むといい。絵もたのしいので、ぜひ大型で。
だごだごころころ	石黒漢子・梶山俊夫／再話、 梶山俊夫／絵	福音館書店	7分	ばあさんは、ころがっていくだご（だんご）をおいかけていたら、赤鬼につかまり、不思議なしゃもじで毎日だごを作らされていた。家に帰れず、悲しんでいたばあさんのところに、こないだ助けたあかとんぼが飛んできた。	テンポが良くて、音読するととても楽しい。ケラケラ笑ってくれる子どももいる。幅広い年齢層で楽しめる。
やまんばのにしき	まつたにみよこ／ぶん、せがわやすお／え	ポプラ社	13分	ある日、やまんばが子どもを生んだので、餅をついて持ってこいという恐ろしい声が村中に響き渡った。そこで「あかざばんば」と呼ばれているばあさまが、やまんばに餅を届けるために道案内をすることになった。	初めて長い絵本に挑戦する人にもおすすめ。絵に対して文章が多く感じるかもしれないが、練習して読めば、子どもたちはよく聞いてくれる。同じ作者の『たべられたやまんば』もおすすめ。



他のリストは
埼玉県立図書館
ウェブサイトへ!

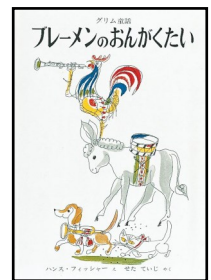
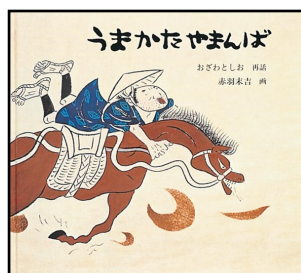


中学年から

タイトル	作者	出版社	時間	内容	おすすめのポイント
だいくとおにろく	松居直／再話、 赤羽末吉／画	福音館書店	6分	大工は、村人たちに何度橋をかけてもたちまち流されてしまう川に、橋をかけてほしいと依頼される。大工が川をみつめていると、川の中から鬼が現れて、目玉とひきかえに橋をかけてやるという。そうして2日後にはりっぱな橋が完成していた。鬼は目玉をよこせと大工にせまる。鬼の名前をあてれば、ゆるすという言葉に大工は山へ逃げていった。	定番中の定番。誰が読んでも面白い。ドキドキする話の展開が何とも言えない。赤羽さんの描く怖いけれどひょうきんな一面もある鬼に、一度は出会ってほしい。
うまかたやまんば	おざわとしお／ 再話、赤羽末吉／画	福音館書店	7分	馬方は峠でやまんばに追いかけられ、仕入れた魚と馬をやまんばに食われてしまう。馬方もやまんばに狙われ、命からがら逃げ込んだのは、やまんばの家だった。	うまかたとやまんばのやり取りのシーンは、子どもたちが大好き。
王さまと九人のきょうだい	君島久子／訳、 赤羽末吉／絵	岩波書店	14分	子どものいないおじいさんとおばあさんは、突然現れた老人から子どもが生まれる丸薬を九つもらった。おばあさんがその丸薬を飲むと九人も赤んぼうが生まれる。そして、この九人の兄弟が成長した頃、王さまが国中に難題を出す。その難題に対して、九人の兄弟は…。	文は長くても、九人の魅力が聞き手をぐいぐい引っ張ってくれるので、テンポよく読めば大丈夫！

高学年から

タイトル	作者	出版社	時間	内容	おすすめのポイント
いしになったかりゅうど	大塚勇三／再話、 赤羽末吉／画	福音館書店	11分	心のやさしい狩人ハイリブは、大きい真鶴に食べられそうな白蛇を助けた。するとその白蛇は竜王の娘であった。お礼に竜王の宝である鳥やけものことばがわかる玉を手に入れた。 ある日、ハイリブが狩りをしていると鳥たちが「山が崩れて大水が来る」と叫んでいる声が聞こえてきた。	奥行きのあるドラマなので、読み手は物語の雰囲気と流れをしっかりつかんで読んでほしい。特に最後のページは丁寧に、聞き手の心に残る余韻をたいせつにして。
ブレーメンのおんがくたい	グリム／〔原作〕、 ハンス・フィッシャー／ え、せたていじ／やく	福音館書店	10分	飼い主に見放されたろばといぬとねことおんどりは、ブレーメンの町の音楽隊に入って一緒に音楽をやろうと出かける。その途中で日が暮れて、森の中で見つけたのは、泥棒の家だった。	泥棒が慌ててて全く事実と違うことを話す様子に子どもたちは爆笑。声に出して読んでみると、読み手も楽しくなる。



編集発行 埼玉県立久喜図書館 子ども読書支援センター
 協力 子ども読書支援ボランティア
 〒346-8506 埼玉県久喜市下早見85-5 TEL 0480(21)2659

